「かがやきだより」桜小のかがやきルームより支援の手立てのヒントを発信

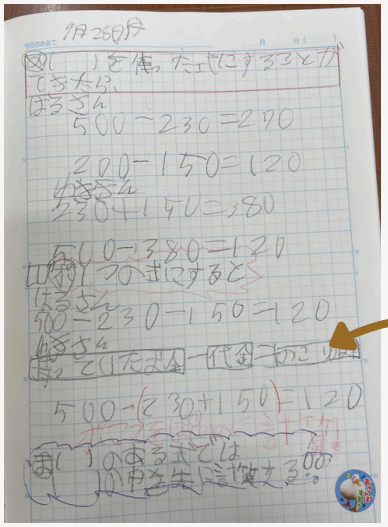
苦手、でも少しずつ「できる」へ

かがやきルーム
令和８年度
No.2

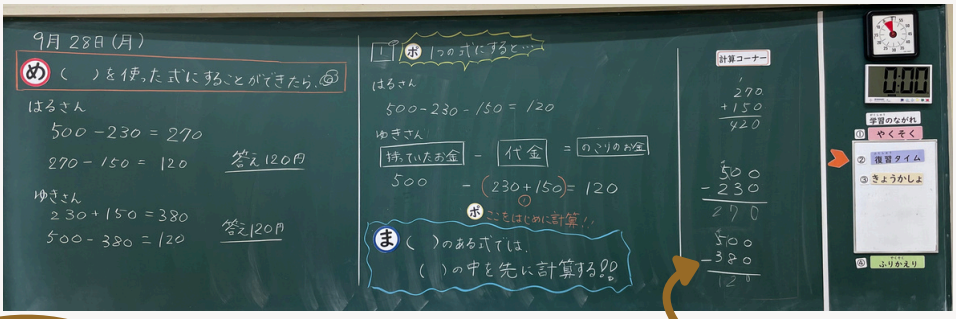
子どもたちのがんばり

　かがやきルームに通う子どもたちも,そうでない子どもたちも,一人ひとり苦手なことやかかえている課題は違います。
　かがやきルームでは,そんな子どもたちの【苦手】を,苦手だからやらなくていい,ではなく,少しずつスモールステップを作って挑戦したり,苦手と思わせずに取り組ませたり,別の方法で取り組めないか子どもと一緒に考えたりしながら【苦手】にも向き合えるよう心がけています。 今回は,「ノートを書くことが苦手」に向き合った一例をご紹介します。

✳ノートを書くことへの支援の例✳
- 書く量を減らす。
- 少しでも書いたらシールを貼って励ます。例えば,めあてを書いたら褒めてシール。
- ザラザラ下敷きを使う。(鉛筆が滑ってしまうことを軽減)
- 黒板に書かせて意欲を高める。
- マスの大きいノートを使う。
- どうしても難しい場合は,ノートを書く代わりに板書の写真をノートに貼る。



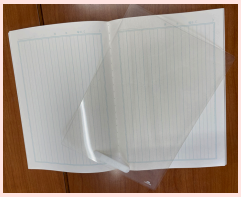
実際に子どもが書いたノート。
ザラザラ下敷きを使用し,書くときに鉛筆が滑りにくいようにしています。
　最初は,めあてを書いたらシール,からスタートしました。



黒板に子どもが計算。
「ノートに計算して」よりも,「黒板に計算していいよ」と言うと,「いいの？」と目をキラキラさせて計算していました。

支援ツールをご紹介！

ザラザラ下敷き



　下敷きの表面にブツブツしたドット加工がしてあります。鉛筆が滑りにくくなり，文字の形が整う,筆圧が整う,鉛筆の動きが整うなどの効果があります。
　文具店やホームセンターでも売っているのを見かけました。

もちかた補助具



　補助具は，指を添えるだけで親指・人差し指・中指の位置が固定され，正しい鉛筆の持ち方が自然に身につく効果があります。これにより，文字をきれいに書きやすくなり，長時間の筆記でも手が疲れにくくなります